

掲示板のことば

愚者に
なりて
往生す

2020. 06

この言葉は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人のお手紙に遺されている言葉です。

お手紙では、親鸞聖人が法然上人より直接お聞きした言葉として、「浄土宗のひとは愚者になりて往生す」と記されています。「浄土宗」とは、今で言うところの一つの宗派を指しているのではなく、浄土のまことを、生きる中心にすることです。つまり、浄土のまことを中心に生きる者は、愚かな者となって生きて往くのだ、という意味に私は受け取っております。

しかし、この「愚かな者」という言葉には注意が必要です。そのまま受け取ると、「何だ、馬鹿にして」と思ってしまいそうですが、そこには深い味わいがあります。お手紙ではこの後に、法然上人は、目の前で熱心に法話に耳を傾けている、学問の機会がなかった生活者（庶民）をご覧になって、「この者たちの往生は間違いない」と微笑みを浮かべられた、と記されているのです。

つまり、日々の生活に追われながらも、仏の教えを聞かすにはおれないという人々、学問の機会がなく、経典を読み理解することもできない者、仏の救いからは見放されているのではないかと不安になっている者たち、その者たちの熱心な姿に、法然上人は微笑みを浮かべ喜ばれたのでしょう。

自分の思い通りに生きることができている人に、仏の教えは響きません。思いどおりにならない人生を引き受けて生きてゆこうと、仏の教えをよりどころに生きてゆこうという姿が、「愚者になりて往生す」る姿なのではないでしょうか。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹